

9 . サンパン・バトの伝説

長い時間が過ぎましたが、しかし、サンパン・バトの美しい物語は多くの人にはまだ知られていません。すべての人がサンパン・バトの物語と秘密を知る時が来ました。サンパン・バトは、かつてザンパレス州のピナツポ山の近くの、緑豊かで肥沃な村で、勤勉な人々が住んでいました。ピナツポ山が1991年6月に噴火した時、サンパン・バトは降灰によって重大に影響された地域のひとつであり、後に、雨が来た時、マニラ・タイムズの1991年7月31日号の中に掲載された、添付の写真が示すように、かつての町の姿が出現しました。

かつて、遠く離れた村に、クラウドディアという名前のかわいい乙女が住んでいました。彼女には多くの求婚者がいましたが、彼女はだれよりもバディロが好きでした。バディロは農夫でした。彼は親切で、気が利き、そして勤勉でした。

月日が経つに従って、クラウドディアとバディロの愛はお互い強くなりました。彼らは願に対して忠実であり、そして、命ある限りお互いを愛し続けると、誓約しました。

不幸なことに、クラウドディアの父、マン・ボロンは、バディロとの交際を快く思っていませんでした。彼は心の内で、クラウドディアのほかの求婚者を義理の息子にしたいと思っていたのです。アンセルモというのがこの求婚者の名前ですが、しかし、彼は少女からは好かれも、愛されもしていませんでした。

ある日、バディロは、いつものように、日の出前に、畑へ働きに出かけました。出る前に、彼は弟に、朝食を畑に持ってくるように伝えておきました。バディロはしばらく畑で働きました。

その後、その朝バディロの弟がバディロの食事を持って来ました。食事の後、バディロは弟が泣いているのに気づきました。

「どうして泣いているんだ？」とバディロは聞きました。

弟は最初ためらいましたが、しかしバディロが催促するので、彼はそれが彼の発見したことと関係があり、それが泣いている理由だと言いました。

「今朝、アンセルモの両親がクラウドディアの両親に会いに行った。」と弟は話し始めました。「彼

らはクラウドディアを彼らの息子アンセルモと結婚させるように頼んだんだ。」

「どうやって、お前はこのことを知ったんだ？」バディロは聞きました。

「ぼくは、たまたまクラウドディアの声 ああ、彼女は泣いていた、そこを通りかかったんだ。」

「クラウドディアは断ったのか？」このときバディロは聞きました。

「ああ、彼女は断った。」と少年は言いました。「でも、彼女に何ができる？彼女の父がどんなに非情か知っているだろう。彼女の訴えは無駄だった。要するに、彼女は彼のことを好きであろうがなかろうが、マン・ボロンの意思に従わなければならなかったんだ。」

「それで、マン・ボロンの意思とは何だ？」

「クラウドディアがアンセルモと結婚することだ。」

「彼らは結婚の日を決めたのか？」

「ああ、明日の朝6時だ。」

結婚の準備はすぐに実行され、そしてそれらは手の込んだ、非常に高価なものでした。クラウドディアの友人たちが手助けに来て、家を飾ったり、ほかの準備をしていました。クラウドディアの結婚衣裳を優雅にするために、町の最高の四人の仕立屋が協力して準備しました。

忙しい準備の中で、クラウドディアは何とかして、彼女が一人で部屋から出たいと思っていました。そして、彼女はトランクから小さな箱と取り出しました。

夜遅く、クラウドディアがどこにもいないことがわかりました。彼女は部屋にはいません。家のどこにもいません。みんないらだててきました。クラウドディアの父、マン・ボロンは、娘の行方不明を聞くと、卒倒しました。彼には応急処置をしなければなりませんでした。

その後、クラウドディアが親しくしていた友人のひとりである若い乙女が、クラウドディアのまくらの中から手紙をみつけて持ってきました。彼女はその手紙をすぐにマン・ボロンに渡しました。その手紙には、以下のようなことが書かれていました。

フィリピン 神話と伝説

「お父さん、わたしは自分の愛していない男の人と結婚するよりは、死んだ方がましです。きっと、わたしは死の中に幸せを見つけるでしょう。わたしは天国でわたしのたったひとりの真に愛するバディロを待ちます。さようなら、そしてわたしを赦して。クラウディア」

ただちに、マン・ボロンは娘を見つけるために家を出ました。家から少し離れたところで、彼はアンセルモが来るのを見ました。アンセルモは、荷車に乗っていました。

「どこへ行っておられるんですか、マン・ボロン？」とアンセルモは聞きました。

「わたしはクラウディアを探しに行っている。」マン・ボロンは答えました。「彼女が行方不明なんだ！」

アンセルモは、青ざめました。男たちの所に引き返し、彼と一緒にクラウディアを探すように頼みました。彼らは既に先に行っているマン・ボロンに従いました。他の捜索グループができました。捜索は、夜の暗がりのなかで、続けました。

アンセルモのグループは、クラウディアとバディロの死体を見つけました。悲しく重い心で、彼は男たちに死体をクラウディアの家に運ぶように命じました。それは深い悲しみと後悔と、涙の夜でした。

次の朝、クラウディアと彼女の恋人バディロの死体が見つかったところで、岩が見つかりました。その岩のことを方言で、バトと言いますが、それは、男と女の形をしていました。人々は、クラウディアとバディロの名前を言わないではいられませんでした。

後にこの地域の人々は、その場所の近くに家を建て始めました。その場所はすぐに村に成長し、住民は数を増しました。ここは、現在では不幸な恋人たちであるクラウディアとバディロの形をした岩にちなんで、サパン・バトと呼ばれて、印象付けられています。

練習問題

新しい言葉の学び

A群とB群を結びつけなさい。綴りだけ答えなさい。

9. サンパン・バトの伝説

- A
- 1 . industrious
 - 2 . secret
 - 3 . hesitated
 - 4 . discovered
 - 5 . refuse
 - 6 . pleas
 - 7 . elaborate
 - 8 . jittery
 - 9 . residents
 - 10 . Uttering

- B
- a. something known to few persons
 - b. people living in a certain place
 - c. paused
 - d. hardworking
 - e. appeals
 - f. reject
 - g. worked out carefully
 - h. nervously
 - i. saying
 - j. found out
 - k. shivered
 - l. wandering

主要な考えを思い出しなさい。

物語には多くの主要な考えがあります。出来事が起こった順に大切な考えを書き出してみなさい。

明確化と発展の評価

- 1 . 結婚はフィリピン人には神聖な制度です。昔は、両親が彼らの子どもたちの夫や妻を選んでいました。この習慣は今でもそうですか？
- 2 . Family Code を読み、求婚と結婚に関連した対処法を見つけよう。
- 3 . 求婚と結婚について中心的人物を招いて話してもらいましょう。